

当協会の人間ドックで発見された鳥肌胃炎症例についての検討

○福島京子¹⁾、高根百合子¹⁾、塚原里美¹⁾、佐藤寿子¹⁾、後藤光弘¹⁾、坂本弘明¹⁾、小原

5 勝敏²⁾

1) 公益財団法人福島県保健衛生協会

2) 福島県立医大附属病院内視鏡診療部

10 【目的】鳥肌胃炎とは、上部消化管内視鏡検査（以下、内視鏡検査）で、あたかも鶏の羽根をむしり取った後の皮膚のように、胃粘膜に均一な小顆粒性隆起が密集して認められる病変であり、ヘリコバクター・ピロリ菌（以下、ピロリ菌）感染に起因することが多いと

15 されている。近年、ピロリ菌は消化性潰瘍や胃癌発生の主要病因として注目され、中でも鳥肌胃炎の臨床的意義が注目されている。今回、福島県保健衛生協会（以下、協会）総合

20 健診センターで実施した人間ドックでの内視

鏡検査により 39 名が鳥肌胃炎と診断されたので報告する。

【対象】平成 22 年 4 月から 25 年 10 月までの 3 年 7 か月間に内視鏡検査を施行した 6,508 名を
25 対象とした。

【結果】対象者中 6,469 名が非鳥肌胃炎で、内
32 名 (0.46%) に胃癌が発見された。その 84.4% は
早期胃癌であり、病理組織型はすべて分化型
癌であった。一方、鳥肌胃炎と診断された受
30 診者は 39 名 (0.6%) であり、内訳は男性 6 名
(15.4%)、女性 33 名 (84.6%)、男女別頻度は男性
3,989 名中 6 名 (0.1%)、女性 2,519 名中 33 名 (1.3%) で
あった。年代別にみると、20 歳代 1 名、30 歳
代 8 名、40 歳代 10 名、50 歳代 13 名、60 歳代 7
35 名であった。胃癌を合併した 1 例 (2.6%) は未分
化型癌であった。

人間ドック受診者全体の除菌率は 1 次除菌
成功が 266 名中 222 名 (83.4%)、2 次除菌成功
が 44 名中 37 名 (84.0%) であった。一方、鳥肌胃
40 炎と診断された受診者の 1 次除菌成功は 28 名

中 22 名 (78.5%)、2 次除菌成功は 6 名中 6 名
(100%) であった。

【まとめ】自験例での鳥肌胃炎は女性が男性
の 13 倍多く、文献的にも若い女性に多いとさ
45 れている。私達の検査対象は主に 40 歳以上の
胃癌検診受診者であったため 20～30 歳代の年
齢層は極めて少なく、結果として鳥肌胃炎は
30 歳～50 歳代に集中していた。非鳥肌胃炎で
の胃癌合併率が 6,469 名中 32 名 (0.46%) であった
50 のに比し、鳥肌胃炎では 2.6% (5.184 倍) とい
う結果であり、病理組織型も異なっていた。
鳥肌胃炎と非鳥肌胃炎の 1 次除菌率は有意差
がなかった。しかし、非鳥肌胃炎の除菌率に
比べて低い傾向にあった。

【結語】鳥肌胃炎は若い女性に多くみられ、
胃癌合併頻度が高いとされている。今回私達
は、本症に悪性度が高い未分化型癌を合併し
た症例を経験した。胃癌への進展防止のため
にも鳥肌胃炎をみたら直ちに除菌療法を行う
60 べきである。

